

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

放課後デイサービス暖母多の津Ⅱ

公表日 R 8 年 3 月 3 1 日

利用児童数 22名 (13校) R 8 年 3 月 30日 回収数21名 (12校)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的にわかりやすく、取り入れやすいものですか。	19	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的アドバイスが大変参考になっている ・ いつも相談にのってもらっている。 ・ 身体機能面での説明がわかりやすかった。 ・ 学習面での教材提案が役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も個々の児童の特性を理解し、診断名にとらわれないかアセスメントと多職種の専門性を活かした情報共有により学校現場の先生方との補完的な連携につながるよう支援の提供につめます。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	19	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活で生じる難しさの原因背景がわかる ・ いつも暖かく接していただいた。 ・ よくわかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も児童の行動の背景や特性を丁寧に分析し、現場で理解しやすい形で伝えていきます。 ・ 安心して相談できる関係性を大切に、専門的知識と技術の向上に努め、より実践的で納得感のある支援の提供に努めます。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれますか。	20	1		<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談しやすい。 ・ いつもアドバイスがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も現場の状況やニーズを的確に把握し、タイミングを逃さない迅速な対応を継続します。 ・ 回答内容についても具体性と実践性を意識し、より現場で活かしやすい助言となるよう努めるとともに、必要に応じて事後フォローや補足説明を行い、安心して相談できる体制を強化します。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	17	4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と保護者の支援量の必要性のズレに丁寧に対応・連携してもらえた。 ・ 課題の共通理解が出来ていた。 ・ トイレトレーニングへの支援が可能であった。(時間・清潔な管理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も関係者間の認識のズレを丁寧に調整しながら、共通理解のもとで一貫した支援を行っていきます。 ・ 日常生活に直結する課題については、具体的かつ実践可能な方法を提案し、現場で継続できる支援として定着を図ります。 ・ 学校と家庭をつなぐ役割を意識し、連携の質を高めることで、課題の解消・軽減につながる支援を継続していきます。
5	事業所からの支援に満足していますか。	18	3		<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、学校・保護者との方向性を合わせることに一緒に連携していきたい ・ 月2回のペースは、良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も学校・保護者との丁寧な情報共有と方針のすり合わせを継続し、一貫した支援体制を維持していきます。 ・ 訪問頻度については現在のペースを基本としつつ、状況やニーズに応じて柔軟に調整し、より効果的な支援につなげていきます。
<p>其他のご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問の目的、観察の視点・学内支援の提案について密に連携がはかれた。貴重な学びになった。 ・ 担任の指導方針や活動のタイミングを常に優先し、状況に応じた柔軟な距離感で支援に入ってもらえた。 ・ 非常に円滑に連携が図れた。 ・ とても勉強になった。 ・ 今起きている困り感の共有が出来た。 					<p>ご意見を踏まえた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携の質や実践的な支援に対する評価や、現場に活かせる支援への有用性についてもご意見、課題をいただきました。これらを踏まえ、今後も学校現場の方針や状況を尊重しながら、目的や視点を明確にした訪問支援を行い、関係機関との共通理解と一貫した支援の強化を図っていきます。あわせて、実践的な支援の提案や直接支援を通じて現場で活かせる知識・技術の提供を継続できる様務めていきます。 ・ 学校への訪問報告については、学校と家庭が同じ情報をもとに相互理解を深め、より良い関係を構築・持続していくためのものと位置づけ、今後も各学校の意向に応じて、口頭・書面の 	

- ・家庭との関係構築の橋渡しの役割を担ってもらった。
- ・いろいろな視点での本人への支援を話し合うことができ、連携を取れて良かった。
- ・今後も学内での本人支援について一緒に考えていきたい。
- ・学校外での様子など情報共有ができた。
- ・適切な距離で対応してもらえて助かった。
- ・学内では出来ない点を放課後連続的に支援してもらえた。
- ・支援級・交流級・放デイ職員それぞれ課題の共通認識を持って、児童・保護者に一貫した関わりが出来心強かった。
- ・対象児童に対する医療的・教育的支援について一緒に考え、アドバイスがもらえた。
- ・初めて保育所等訪問利用を受けたが、とてもありがたい制度（教員側にとっても）だった。
- ・学習面での直接支援や教材の提案を実際の関わりから見せてもらえた。
- ・実際の直接支援から教材の利用方法や児童に合わせた学習支援の方法がわかった。
- ・身体面や医療面での学内での合理的配慮の内容や方法がわかった。
- ・学内での身体的介助の方法やなどにこまっていた。方法や支援の量の調整やタイミングを指導してもらったので見通しが持てた。
- ・訪問の内容がどのように保護者に伝わっているのかが気になる。
- ・口頭での報告で様子はわかるが、保護者と学校が情報共有し連携が出来るよう、書面で記録がもらえると良いと考える。

両面から柔軟に対応していきます。